

2 研究の実際

(4) 校内研究の推進・充実のための方策の実施

実践③ 教科の枠を超えた協議を目指した授業研究会〔C中学校における実践〕

中学校での授業研究会については、それぞれ担当している教科が違うため、学校全体で行う授業研究会において協議が深まらないといった意見が聞かれます。C中学校では、昨年までの授業研究会など付箋を用いた協議の場において、意見の出しっぱなしで終わったり、感想を順に述べるに留まったりする状況を課題と捉えました。そこで、今回、授業研究会を実施するに当たり、これまでの課題を踏まえ、教科の枠を超えた協議を行うことを目指しました。

校内研究の年間計画

月	P D C Aの段階	各段階の取組
4 月	P 校内研究のスタート	○研究主題と内容及び年間計画の確認 ・校内研究の主題を確認するとともに、内容について共通理解を図る。 (C中学校では、小中合同の校内研究の主題を設定しています) ・校内研究会を毎月1回実施する。 ・授業研究会を2学期に1度実施する。
5 月 ↓ 11 月	D 実践 	○校内研究会に向けた取組(p) ・校内研究会においてグループ協議を実施する場合はワークショップ型の選定を行い、協議の進め方について説明資料を準備する。 ○校内研究の取組や研究授業(d) ・小中乗り入れ授業や合同地域公開授業など、校内研究の取組についての計画や振り返りを議題に協議する。 ○校内研究会や授業研究会(c) ・校内研究の取組についての意見交流や授業の視点に基づいた協議を、ワークショップ型で行う。 ○日々の教育実践(a) ・交流した意見をまとめ、次の研究会で共通理解を図る。 ・協議した内容を基に、実践計画に沿った実践を行う。
12 月 ↓ 2 月	C 評価	○今年度の校内研究の取組の振り返りと改善点についての協議 ○まとめの作成
3 月	A 改善	○次年度に向けた校内研究推進計画の作成

※ p d c a を繰り返す。

意識調査

校内研究に関する意識調査を、実践前の7月に第1回、実践後の11月に第2回として行いました。

第1回意識調査の中の質問項目I-1-③「日々の教育実践に校内研究の取組を生かしていますか」I-2-③「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」ということについては、どちらの質問項目も25.0%の教師が「どちらかといえばそう思わない」あるいは「そう思わない」と考えていることを課題であると捉えました。

活用したワークショップ型とそのねらい

第1回意識調査に挙げた課題を解決するために、以下のワークショップ型を選定しました。

○マトリックス法

授業の視点に基づいた分析を日々の教育実践に生かすために、マトリックス法を用いて、2つの視点に基づいて協議しました。また、思いや考えを自主的に述べるために少人数のグループで協議しました。

実践に当たって工夫した点

○担当教科の枠を越えて協議できる視点を設定しました。

授業の視点

- ① 教材・教具（ICT利活用）の工夫は学習意欲を高めるものであったか。
- ② 言語力の育成を通じた表現力を育てる指導であったか。

○協議内容の焦点化を図るために、授業者による指導案の説明と、授業中の具体的な見取り方の説明を行いました。

事前の取組

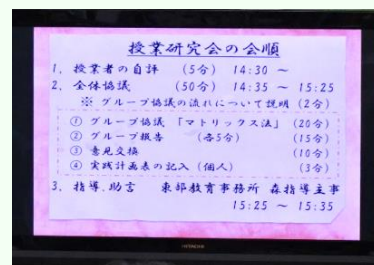
「本研究で提案する事前の取組例」に沿って行いました。

「本研究で提案する事前の取組例」はこちら

授業研究会の実際

～ 中学校3年生国語科の授業研究会の取組 ～

活動	分	活動の具体
1 開会		
2 授業研究会の進行確認	5	・説明資料を用いて、授業研究会の進行について確認した。
3 授業者の自評	5	
4 マトリックス法によるグループ協議	20	・グループ協議を始める前に留意点について確認した。 グループ協議の留意点 ① 研究授業を振り返りながら、授業の視点に沿って話し合う。 ② 全員が意見を出し合う。  ファシリテーター「今日の授業についてよかった点、改善点を付箋に書く時間が取れなかった方もおられると思いますので3分程度時間を取ります。書いたものは表に貼ってください。」



授業研究会の進行における説明資料

グループ協議

(20 分)

- ・ 1 年担当 (4 人)、2 年担当 (4 人)、3 年担当 (4 人) の 3 グループに分かれた。
- ・ 研究授業中に授業者の手立てや生徒の様子についての気づきを記入した付箋を、マトリックス (次ページ下部参照) に分類して貼った。その後、授業の視点に沿った手立ての成果と課題を協議した。

表のあてはまる所に貼っています。ピンクが成果、水色が課題です。
「マトリック法を使って分類すると課題がはっきりするね。」



各先生による、付箋の記述内容についての説明を終えた後、記述内容を基に意見交流した内容を書き加えていきます。



同じ内容のものは枠を付けてまとめます。



グループ協議の様子

授業研究会で用いたマトリックス

視点	学習意欲を高める 教材・教具・ICT	言語力・表現力	その他
(ピンク) よい点			
(水色) 改善点			
疑問点			
その他			

5 グループの代表による発表

15

代表者による発表

(15 分)

- ・ グループの代表が、各グループで出された成果と課題を発表した。



代表者の発表の様子

6 全体協議	10	全体協議 (10分) 各グループから出された意見を基に、全体で協議した。 全体協議では、水色の付箋に書かれていた課題を基に進めていきます。授業者が、言語力を高めるために継続して取り組んでいる日頃の指導について説明しています。  全体協議の様子
7 閉会		

事後の取組

研究会後に、教師全員が実践シートに、実践計画を記入しました。

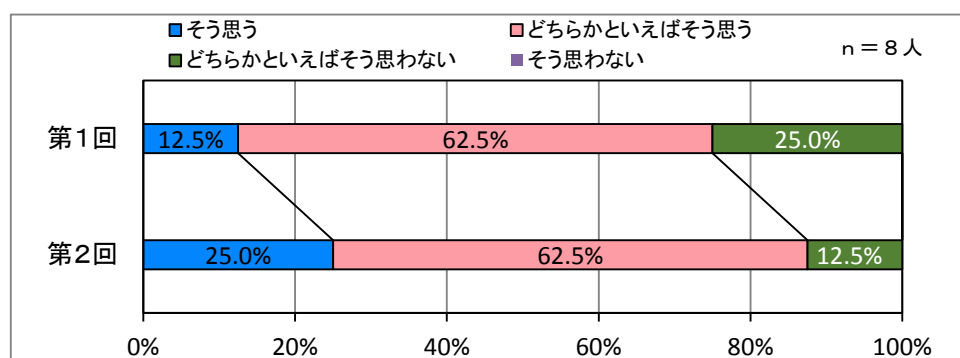
実践計画表 (月 日) 氏名	
◎研究会で明確に把握した成果や課題を、日々の教育実践につなげるために、これからの具体的な取り組みを考えてみましょう。	
(1) 学習意欲を高める 教材・教員の工夫 (ICT 利活用)	・剣道の授業で、活動方法等をDVDと使用し、イメージさせ、スムーズに活動できるようにする。 ・保健の授業で、画像を見せながら、興味を持たせる。
(2) 言語力の育成を通した豊かな表現力を育てる指導	・グループでの話し合いや、学び合い活動の時間を作る

実践シート

実践を終えて

実践後の第2回意識調査の結果は、以下のようになりました。

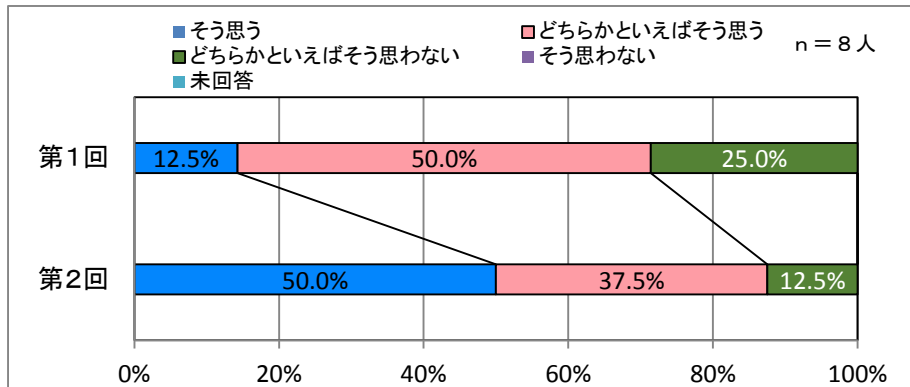
ア I - 1 - ③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」について



I－1－③「日々の教育実践に、校内研究の取組を生かしていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 75.0%、第2回 87.5%となり、肯定的な回答が、12.5ポイント増加しました。日々の教育実践に生かしたことから具体的に記述されていた内容は、以下のとおりです。

- ・実践計画表を有効活用する。
- ・折にふれて校内研で出た話を確認する。
- ・常に情報交換をする

II－2－②「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」について



I－2－③「自分の思いや考えを自主的に述べていますか」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教師の割合は、第1回 62.5%、第2回 87.5%となり、肯定的な回答が、25.0ポイント増加しました。自分の思いや考えを自主的に述べることに関連する記述内容は、以下のとおりです。

- ・少人数グループなので、多くの先生方の意見を聞くことができた。
- ・意見を言いやすい雰囲気ですごくよかった。
- ・マトリックス表を使うと意見がまとまりやすい。

以上の結果から、少人数グループで協議することで多くの教師の意見を引き出すことにつながったと思われます。また、マトリックス法を用いることで、協議の視点が明確になり意見がまとまりやすかったと思われます。さらに、実践シートなどの具体的な手立てを取ることで、授業研究会で協議したことをその後も継続的に実践に生かそうとしていることがうかがえました。

今回の実践において、それぞれの教育実践に生かすための協議を目指し、手立てを取ることで、担当教科が違っていても同じ視点で意見交流を行い、協議を深めることができました。今後は、グループ協議で出た意見を生かすための手立てを工夫するなど、日々の教育実践につなげるような取組を行うことで、更なる校内研究の推進・充実を図ることができると考えます。